

1章 学校組織マネジメントを考える上でのキーワード

当センターでは、自らの職能成長及び学校組織の活性化につながるものとして教職員のライフステージに応じ、組織マネジメントの要素を取り入れた研修を実施しています。

本書は、研修の中から学校組織の活性化や自らの気づきを生み出す上で参考となる考え方や具体的な演習例を「ビジョン（目標）づくり」、「組織づくり」、「ひとづくり」、「学校評価」、「組織的な協働による学校運営」に分けてまとめています。

「京の子ども、夢・未来」プラン21の中で府民の信頼を高める学校づくりが示され、今まで以上に、学校が判断し、その教育活動の成果を説明責任の視点から公表していくことが求められます。

学校組織マネジメントを一言で表すならば、「学校内外の環境にどのように適応していくのか」を考えることといえます。

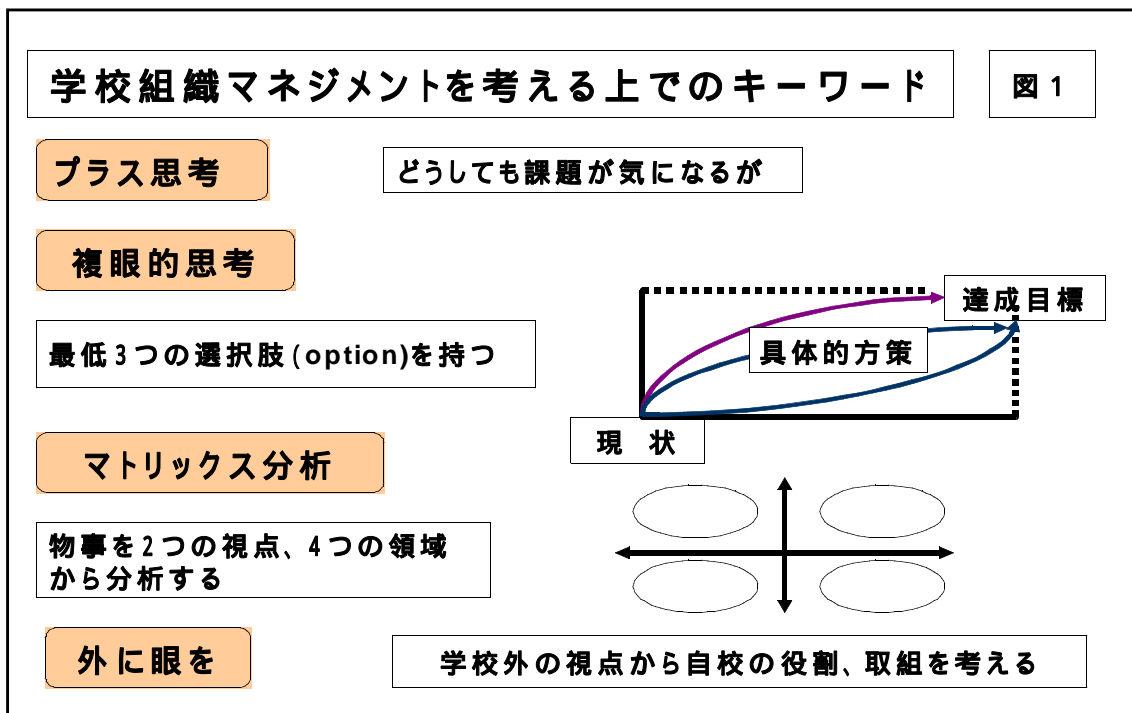
生物学者であるダーウィンは、「生き残る生物とは、強い生物でも、賢い生物でもなく、環境の変化に対応できる生物である」と述べています。

学校組織マネジメントは、

- ・ 教職員がコミュニケーションを通して協働する。
- ・ 学校内外の資源（人、もの、金、情報）を活用する。
- ・ 設定した目標の達成を目指し、学校の使命を果たす。

ための考え方といえます。

本書は、学校組織マネジメントについて、図1のように「プラス思考」、「複眼的思考」、「マトリックス分析」、「外に眼を」の4つのキーワードを基本的な考え方として展開していきます。



「**プラス思考**」は、児童生徒への指導と同様に、学校のよいところに気付き、それを伸ばそうとする発想のことです。

「**複眼的思考**」は、現状から目指すゴールに到達する手だては、教職員の納得を引き出すためにも複数考えることです。

「**マトリックス分析**」は、物事を一面的に見ないため、考える軸を2つ持ち、4つの領域から絶えず考える習慣を身に付け、視野を拡大していくことです。

「**外に眼を**」は、学校を中心とした視点だけでなく、学校に関係する人々の視点から学校をとらえ直してみようということなのです。